

曹洞宗東北管区教化センターテレホン法話「心の電話」 令和五年二月二十一日～二十八日 副住職担当回

お地藏さまの功德

私が副住職を務めているお寺には本堂に向かって石段があり、その中ほどに一体のお地藏さまがお祀りされています。お地藏さまは、お釈迦さまが亡くなった後、如来となることを約束されている弥勒菩薩が五十六億七千万年後にやってくるまでの間、人々を救ってくださる役割を担われました。また、六道といわれる苦しみの世界を巡って人々を救い、特に親より先に亡くなってしまった子供たちを守ってくれろとされています。そのため、特にお子さんを幼くして亡くした親御さんなど多くの人々に信仰されてきました。私がいるお寺のお地藏さまも同様に古くから多くの檀信徒に篤く信仰されてきましたが、その表れがお地藏さまがかぶっている赤い帽子と前掛けです。この二つは、お寺から頼んだわけではないのに、誰かしらがいつも手作りしてくださり、知らず知らずのうちに前のものが傷んだ頃に新しくなっているのです。私はその事が不思議でなりませんでした。

ふと記憶をたどってみると、私も小さい頃からこのお地藏さまを大切に思ってきたことに気づきました。受験に合格したとき、家族の健康を願うとき、このお地藏さまに手を合わせると思慮と私自身の心にあたたかいものがこみあげてくるように感じられたものです。いつでもどこでもそのあたたかな慈しみの心で私たちを救ってくださる。病気からの快復など様々な功德があるとされているお地藏さまのなにより功德は、私たちの心の中にある他者の幸せや安穩を願う仏さまの心に火を灯してくださることではないか。私はそう思うのです。

仏教には、四摂法といわれる他の人を助ける四つの実践徳目があります。その中の一つである同事は、心一つにして共に歩むという生き方を示しています。お地藏さまはお寺の中だけではな

行事予告

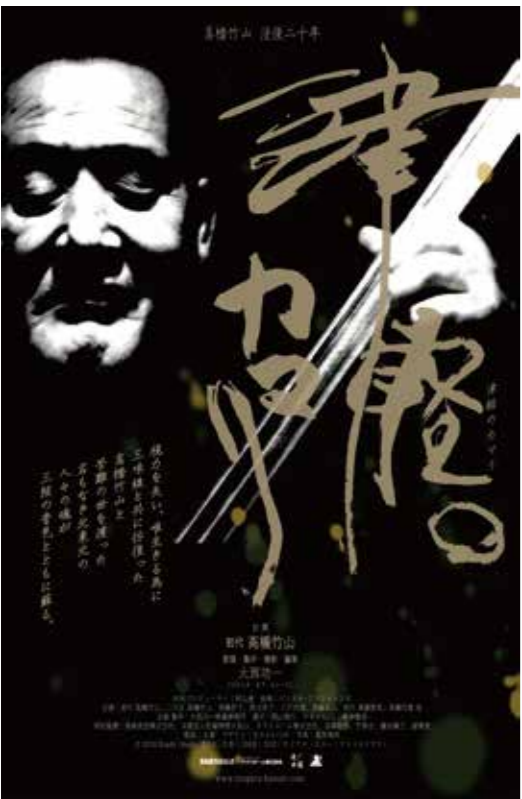
「映画『津軽のカマリ』全国キャラバン上映会 in むつ大安寺」開催のお知らせ

《映画チラシより抜粋》

「それを聴けば津軽の匂い（カマリ）が湧き出るような
そんな音を出したいものだ」

視力を失い、唯生きる為に三味線と共に彷徨った高橋竹山と
苦難の世を渡った名もなき北東北の人々の魂が
三弦の音色とともに蘇る。

津軽三味線の巨星、故初代高橋竹山。明治に生まれ、幼少期に
煩った麻疹が元でおおよその視力を失う。北東北の過酷な環境の
中、庶民の暮らしは貧しく、福祉もまだ整わない時代、唯生きて
いく為に三味線を習い、門付けをしながら乞食同然に彷徨った。



く、道端など様々な場所に佇み、私たちを見守ってくださっています。そして、見守るだけでなく、私たちに対して同事の生き方をも働きかけてくださっているのです。



『おてらおやつクラブ募金箱』へのご協力をお願いします。

当山でも協力している「おてらおやつクラブ」はお寺にお供えされるさまざまなお菓子を、仏さまからの「おさがり」としてお送りし、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動を行っている認定NPO法人です。このほど、その活動資金を集



め、同法人にお送りするための募金箱を事務室前カウンタ―に設置しました。令和五年三月現在、おてらおやつクラブを通して支援を待つ約二万六千人の子どもたちのために、ご協力の程宜しくお願いいたします。

生前、竹山は「津軽の匂いがわきでるような音をだしたい」と語っている。彼を産み、視力を奪い、蔑み、また命の綱となった三味線を授けた恨めしくも愛おしいこの土地に初代竹山は終生拠点を置き、津軽の音を探し続けた。映画は、残された映像や音声、自身の竹山を知る人々の言葉を拾いながら、彼の人生や心模様を呼び覚ましていく。そして、この地に今も残る風習や文化、人々の暮らしにレンズを向け、竹山の音に潜むであろう津軽の原風景を浮き彫りにしていく。

この映画のもう一人の主要人物、二代目高橋竹山。師、初代竹山に見込まれ、長く付従い、一九九七年に襲名をした女性三味線演奏家である。しかし、津軽では彼女を認め、竹山と呼ぶ人は少ない。襲名以来、青森市での単独コンサートは一度も開かれてこなかった。映画の中で、二代目はかつて師とともに訪れ、戦争に命を奪われた多くの人々のことを知るに至った沖縄や、師が旅芸人時代に大津波にあり、命の危険にさらされた三陸野田村などを巡り、初代竹山を再確認していく。そして、かつて内弟子時代を過ごした津軽に久しぶりに帰り、師の墓前に花を手向ける。再び師と向き合った二代目は、襲名後、初となる青森市内での単独コンサートに臨み、目の覚めるような素晴らしい三味線の音を響かせるのだ。

『津軽のカマリ』全国キャラバン上映会 in むつ大安寺

*大西功一監督トークショーあり

■日時：令和五年四月二十四日（月）

■開場：十八時、■開演：十八時半

*作品時間一〇四分、終映後、監督トーク

■会場：大安寺大広間（青森県むつ市大畑町本町八十番地）

■料金：前売千六百元 当日千八百円

※令和五年三月十五日より当山事務室にて発売開始

■主催・問合せ：大安寺 電話〇八〇・二〇四二・八三三七（副住職）